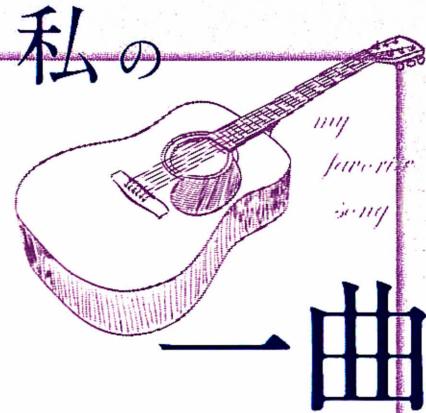


ラプソディー・イン・ブルー

米国のジョージ・ガーシュウィン作曲のピアノ独奏と管弦楽のための音楽作品。ここではピアニスト・三船優子の3枚目のアルバムを紹介。三船氏は現在、京都市立芸術大学非常勤講師(CD: ファンハウス、1996年発売)



学生時代、私の夢はアメリカに行くことだった。卒業後にECFMG資格があれば米国で臨床ができると聞き、早速受験し医学部門は通過。英語部門はTOEFLで上位数%以内のスコアを出し、同資格を取得できた。

その後米国でfamily practice residencyで臨床を経験。日本と比較し、プログラムや環境、習慣、文化など驚くことばかりで、人生観が変わったといえよう。

面白いワークショップを思い出す。内科医(Internist)と家庭医(Family Physician)の違いはformal vs. casual、服装ならネクタイ vs. ジーンズ、酒ならワイン vs. ビール、音楽ならクラシック vs. ジャズという。

そのとき会場でGeorge Gershwin作曲の“Rhapsody In Blue”が流れていた。ジャズの語法による狂詩曲という意味合いだ。欧州のクラシックと米国のジャズを融合させたsymphonic jazzとして評価が高く、アメリカ的芸術音楽の代表格でもある。

この曲の雰囲気が大好きな私は練習を重

医学と音楽は同根の真善美

ね、第3回ヨーロッパ国際ピアノコンクール(EIPIC) in Japan(2012年)や日独国際親善ピアノコンサート(2013年)、ピティナ(PTNA, 2014)でも演奏することに。

また、秋田の国民文化祭(2014年)の「アマチュアピアニストの祭典」でも華麗に弾きこなし、指の動きよりインタビューでの口の動きが滑らかと褒められた。

私の専門はプライマリ・ケア医学や糖質制限、音楽療法など。最近の世界家庭医学会(WONCA)のテーマにはMedicine & Artなども。歴史を紐解くと医学、音楽、宗教は同根で、目標は真善美かもしれない。

2017年5月、日本プライマリ・ケア連合学会第8回学術総会が高松で開催される。いろいろな意味で幅広い医療を包含し、心身の健康をめざしたいものである。

情報は<http://pianomed-mr.jp/>まで。

日本PC連合学会学術大会長(2017)
板東 浩